

平成23年度

健康日本21福岡市計画推進会議専門部会

「健康づくりセンター見直し委員会」

【福岡市健康づくりセンターの機能再構築について】

第1回 ～センター及び本市生活習慣病対策の現状と課題について～

- | | | |
|---|------------------------------------|-------|
| 1 | 健康づくりセンターの概要 | ・・・P1 |
| 2 | 見直しの背景 | ・・・P1 |
| 3 | 「健康日本21福岡市計画」と健康づくり
センター見直しの方向性 | ・・・P3 |
| 4 | 健康づくりセンター実施事業（市委託事業）
について | ・・・P4 |
| 5 | 健康づくりセンターが抱える課題
（指摘事項）等 | ・・・P6 |
| 6 | 本市の生活習慣病対策の現状と課題 | ・・・P6 |

福岡市健康づくりセンターの機能再構築について

第1回 ～センター及び本市生活習慣病対策の現状と課題について～

1 健康づくりセンターの概要

【名称】福岡市健康づくりセンター

【設置年月日】平成6年12月12日

【所在地】福岡市中央区舞鶴二丁目5番1号（あいれふ内）

【設置目的】市民の自主的な健康づくりへの支援等を通じてその健康の保持及び増進を図るとともに、豊かな生活文化の創造の場を提供し、もって市民の福祉の向上に資する。

【事業】 ○健康づくりに関する調査・研究

○健康の増進を図る目的で行う医学的・生理学的検査及び当該検査に基づく指導

○健康づくりに関する講座，講演会，教室等の開催

○健康づくりに関する相談及び指導者の養成

○健康づくりに関する図書，資料等の収集，情報の提供及び装置等の展示

○施設の利用その他の便宜供与

2 見直しの背景

(1) 健康づくりセンターに対する指摘等

ア 福岡市第2次外郭団体改革実行計画（H20.7）

「財団の事業の点検・評価・見直しを行うとともに、保健福祉局，区保健福祉センター，健康づくり関係者，民間事業者との役割分担・連携のあり方，及び市による事業の直営化の可否も含め，財団のあり方を検討する。」（H21～H23）

イ 事業の選択と集中

厳しい行財政状況の中，限られた財源を有効活用する観点から，健康づくりセンターにおいて現在実施されている事業については，市民ニーズや費用対効果等を踏まえ，効果が低いものについては抜本的に見直すなど，選択と集中を図る必要がある。

(2) 近年の社会情勢等

ア 急速な高齢化の進展

○本市の高齢化率（2008年）16.5% → （2014年）20.0% ※推計

イ 国の医療制度改革

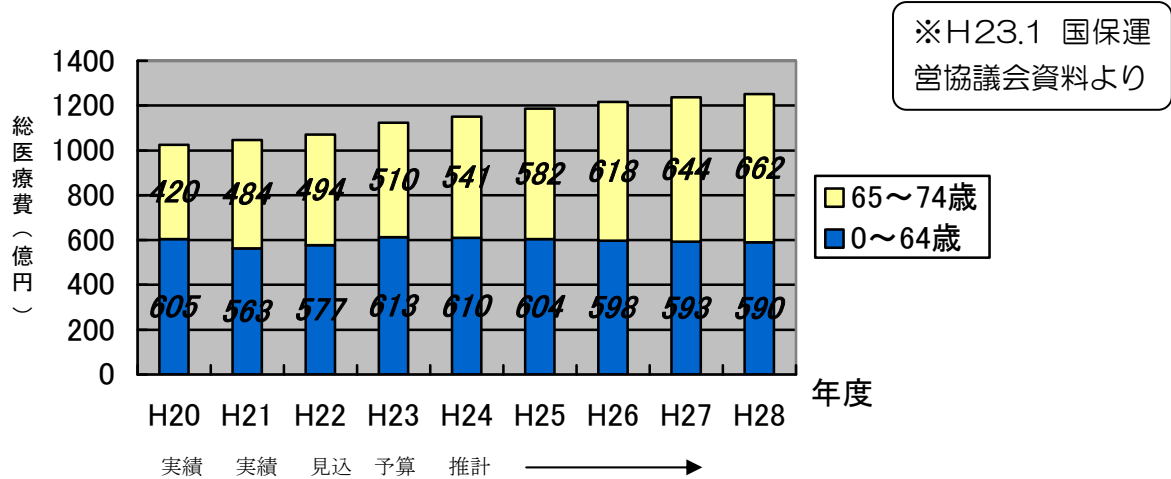
○治療重視の医療から，疾病の予防を重視した保健医療体制への転換

○生活習慣病の有病者・予備群の減少，糖尿病や脳血管疾患等の重症化予防や死亡率減少などが目標数値として示される → **保健と医療との連携が益々重要**

ウ 総医療費の増嵩

○増え続ける医療費の適正化が必要

本市の国保医療費推計



※ 平成 24 年度以降の医療費改訂は無いものとして推計

※ 65 歳以上と 65 歳未満のそれぞれの括りにおける一人あたり医療費は平成 23 年度と同額に固定し、年齢構成の移動のみによる医療費の伸びを推計

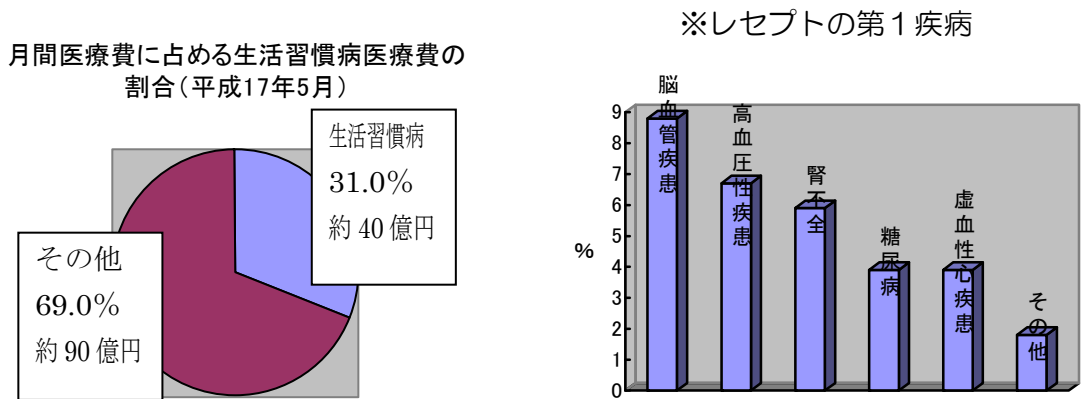
(H20) 1,025 億円 → (H28) 1,252 億円

(3) 本市の国保医療費分析

「福岡市国民健康保険医療費・保健事業分析結果報告 (H19)」※抜粋

○平成 17 年度 (5 月分) の本市国保医療費 (老人医療分を含む)

1 ヶ月の医療費約 130 億円のうち、生活習慣病が約 40 億円 (全体の約 30%)



○人工透析患者の状況 (国保)

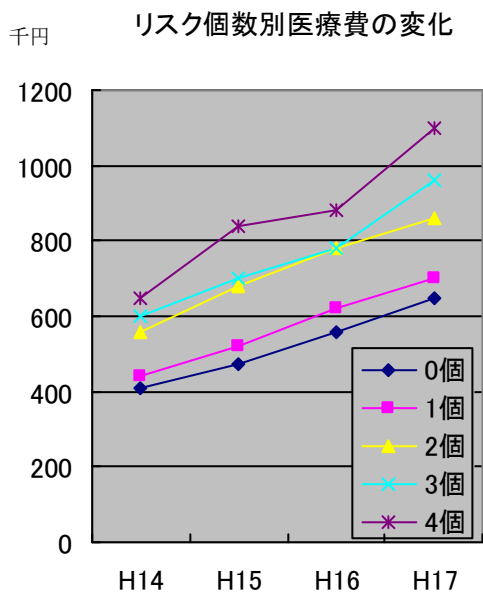
平成 13 年 (10 月) 時点 1,363 人 → 平成 17 年 (10 月) 時点 1,848 人

4 年で 485 人の増加

医療費に換算すると、500 万円 (年間費用※概算) × 485 人 = 約 24 億円の増加

○健診による複合リスク者の医療費 (BMI, 血圧, 脂質, 血糖)

- ・健診で複合リスクをもった人の医療費の伸びは高い
- ・中でも、糖尿病のリスクをもった人の医療費が高い



H12 健診でリスクありの人の5年後の医療費の状況	
H12年度の健診リスク	5年後(H17年度)の1人あたり医療費(円)
リスクなし	648,971
BMI リスクあり	873,107
BMI リスクなし	751,393
血圧リスクあり	936,832
血圧リスクなし	680,464
脂質リスクあり	770,525
脂質リスクなし	795,855
血糖リスクあり	1,148,691
血糖リスクなし	742,756

3 「健康日本21福岡市計画」と健康づくりセンター見直しの方向性

本市の健康増進計画である「健康日本21福岡市計画」は、これまでの中間評価や国の医療制度改革等を踏まえ従前の計画に追加・増補するなど内容を見直し、平成21年3月に改訂したところである。

高齢化の急速な進展や総医療費の増嵩などを背景に、健康づくりはますますその重要性を増しており、これからの本市の健康づくりにおいては、その基本的指針である本計画を着実に推進するとともに、今後はさらに「戦略的視点」を持って、様々な今日的課題に対応していく必要がある。

【健康日本21福岡市計画】(平成21年3月改訂版)

<今後の重点強化項目>

- 地域での自主的な活動の強化
- 運動の推進, 食育の推進
- 「特定健診・特定保健指導」「がん検診」の受診率向上
- メタボリックシンドロームや糖尿病・高血圧症などの生活習慣病対策の強化 など

<疾病別健康目標の設定>

- ①メタボリックシンドローム ②糖尿病
- ③高血圧症 ④動脈硬化性疾患

<健康づくりセンター>

「医療制度改革を受けて、新しい「特定健診・特定保健指導」の実施をはじめ、生活習慣病対策、がん対策などについて、医療とさらに緊密に連携した市民の健康づくり対策の充実・強化を図っていきます。

また、本市の健康づくりの中核施設である健康づくりセンターについては、医療との連携を主眼に、このような方針のもと、事業内容の再構築について検討を進めます。」

4 健康づくりセンター実施事業（市委託事業）について

	主な実施事業	事業概要・目的等	実績等
(1) 健康づくりに関する調査・研究	健康づくりに関する調査・研究	●行政が保有すべき専門性や指導力を高めるとともに、運動・栄養・休養等の総合的な観点から、市民に対して現代的な健康づくりの支援、プログラム等の提供を効果的に行うことを目的としている。	○メボリックフィットームを含めた各種生活習慣病撲滅プログラムの作成のための研究（H19～H20） ○介護予防事業における新プログラムの（祝いめでた体操）の開発（H20） ○骨粗しょう症予防プログラムの開発のための研究（H20～H22） ○幼児（3歳児）の生活習慣調査（H21～H22） ※他に自主事業として「健康度診断の縦断研究」等あり
(2) 健康の増進を図る目的で行う医学的・生理学的検査及び当該検査に基づく指導	○健康度診断 ※他に自主事業として「運動強度測定」等あり	●問診、医学的検査や運動負荷テストなど、様々な角度から検査を実施し、一人ひとりの状態に応じた医療・運動・栄養等の総合的なアドバイスをを行っている。また、調査・研究の一環という位置づけでもあり、将来的に必要な基礎データ収集という側面もある。	【利用者数】 H19年度：794人（44回） H20年度：706人（40回） H21年度：604人（40回） 【その他】 対象：18歳以上 料金：8,000円 木・日曜日実施
(3) 健康づくりに関する講座、講演会、教室等の開催	○糖尿病教室 ○歯周病予防教室 ○禁煙教室 ○働くママとパパのマタニスクール ※他に自主事業として、「ワーキング実践教室」や「市民公開講座」等あり	★市民の様々な健康ニーズに対応するため、個別の講座・教室等を開催し、疾病予防や健康教育を進めている。	○糖尿病教室 H19年度：49人（6回） H20年度：41人（6回） H21年度：62人（6回） 料金：2,000円 土・日曜日実施 ○歯周病予防教室 H19年度：180人（44回） H20年度：143人（40回） H21年度：105人（40回） 料金：1,000円 木・日曜日実施 ○禁煙教室 H19年度：47人（10回） H20年度：53人（8回） H21年度：43人（6回） 料金：1,000円 金曜夜・土曜午後実施 ○働くママとパパのマタニスクール H19年度：284人（10回） H20年度：322人（10回） H21年度：316人（10回） 料金：無料、第3土曜日実施
(4) 健康づくりに関する相談及び指導者の養成	○健康づくりに関する相談	●面接・電話等により健康づくり全般に関する相談に対応している。	【相談者数】 H19年度：164人（面接17人） H20年度：200人（面接21人） H21年度：221人（面接22人）
	○各区保健福祉センター（保健所）職員研修 ○地域リーダー育成研修 ※他に自主事業として、「産業医研修」等あり	●健康の増進に関する正しい知識を普及することを目的に、指導者の養成を行っている。 ●健康づくり指導者の知識及び技術の向上並びに関係各施設における指導の統一を図るため、体系化した研修を実施している。	○各区保健福祉センター職員等研修【H21実績】 開催回数：9回 参加人数：317人 ○地域リーダー育成研修【H21実績】 開催回数：2講座 参加人数：延べ82人

(5) 健康づくりに関する図書、資料等の収集、情報の提供及び装置等の展示	○図書資料室の運営	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が健康づくりを学ぶ機会・場の提供。 ●専門図書室としてのレファレンスサービスの実施など、健康づくりに関する情報の提供及び収集を行っている。 	【図書貸出者数】 H10年度：13,266人 (レファレンス 2,212回) H15年度：7,324人 (レファレンス 3,602回) H21年度：4,115人 (レファレンス 2,334回)
	○ウェルネストリートの運営	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が健康づくりを学ぶ機会・場の提供。 ●子どもから大人まで健康づくりを楽しみながら学べる施設である。 	【利用者数】 H10年度：44,881人 (うち団体7,437人) H15年度：45,647人 (うち団体5,130人) H21年度：47,099人 (うち団体3,755人)
(6) その他	○特定健診・特定保健指導	<ul style="list-style-type: none"> ●センターにおいて年に24回(土日)特定健診・特定保健指導を実施している。(健診自体は別の事業者へ委託) ●保健指導を確実に実施することにより、将来の生活習慣病患者を減らしていく。 	◎特定健診(H21実績) 【受診者】 272人 ◎特定保健指導(H21実績) 情報提供210人 動機付け支援37人 積極的支援：21人 ※医師会紹介5名を含む
	○健康運動指導士の派遣	<ul style="list-style-type: none"> ●区保健福祉センター(保健所)で実施する各種健康教室や特定保健指導、ヘルスアップスクール(※H22末で終了)実施の際、センターから健康運動指導士を派遣し、必要な技術的支援を行っている。 	(H21実績) ◎ヘルスアップスクール：162回 ◎特定健診結果説明：167回 ◎フォローアップ教室：182回
	○健康づくりの普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の健康づくりの動機付けや実践を促進することを目的として、様々な広報媒体等を通じて、健康づくり情報を発信している。 ●各種イベント等の実施。 	(H21実績) ※自主事業を含む ◎健康づくりセンター-NEWS 年6回発行 ◎マニュアル等作成 3種類 ◎新聞掲載 5件 ◎冊子等への掲載 13回 ◎TV・ラジオ等出演 31回 ◎ネットワーク参加者 2,936人 ◎ふくおか市民糖尿病教室 参加者 573人
	○ホール、講堂及びプラザの管理	<ul style="list-style-type: none"> ●ホール、講堂及びプラザについて施設管理を行っている。 ●健康づくりのみならず、音楽会等の文化事業などの一般利用も多い。 	【利用回数】 ◎ホール H10年度：590回 H15年度：590回 H21年度：541回 ◎講堂 H10年度：395回 H15年度：424回 H21年度：327回 ◎プラザ ※利用日数 H10年度：237日 H15年度：164日 H21年度：160日

5 健康づくりセンターが抱える課題（指摘事項）等

（1）健康づくりのコアセンターとしての機能等

当初構想していた体育館や運動施設等と連携したネットワークによる事業展開は出来なかった。また、企業等を巻き込んだ「社会全体で市民の健康づくりを支えるコーディネーター」としての役割を十分に果たしているとは言えない。

（2）調査・研究のあり方

本市が抱える健康課題を的確に把握するとともに、今後の健康施策を戦略的に進めていくために必要な調査・研究を行うことは意義があるが、調査・研究自体は大学や研究機関等へ委託可能である。

（3）施設利用状況

図書資料室、ウェルネスストリートなどの施設について、中には利用者数が減少しているものや一部の層に偏っているものもある。

（4）医療機関や民間事業者等の成長

近年では、メディカルフィットネスセンターやフィットネスクラブ等の普及により、市民が健康づくりの一環として運動指導を受けられる環境が整ってきており、行政が担う健康度診断や健康教室等のあり方についても見直す時期にきている。

（5）保健福祉局（本庁）、保健所等との役割分担

保健福祉局（本庁）、保健所等との役割分担が明確でなく、重複事業等（講座・教室など）も存在しており、市民にとって分かりづらい面や、事業運営上非効率な面がある。

（6）戦略性

幅広く健康づくり事業を展開しているものの、戦略的な展開がなされていない。

6 本市の生活習慣病対策の現状と課題

（1）生活習慣病について

ア 生活習慣病とは

○糖尿病、高血圧、脳梗塞、心筋梗塞、高脂血症など「食習慣、運動習慣、休養のとり方、嗜好などの生活習慣」に起因する疾病

イ 生活習慣病の特徴

○初期の段階での自覚症状はないが、発症してからでは改善が難しい。

○適切な治療と生活改善を継続して実践しなければ、合併症の発症など重度化する危険性が高い。

○重度化・合併症などを起こせば、QOL（生活の質）は著しく低下するとともに、医療費は急騰する。

(2) 本市の生活習慣病の発症及び重症化を防ぐための取り組み

ア 健康づくりの普及・啓発 一次予防

- 市政だより・ホームページやマスメディア等の様々な広報媒体を通じた健康づくり情報の発信
- 健康教室，講演，健康イベント等の開催（健康フェア，ウォーキングイベントなど）
- 健康度診断
- 様々な機関と連携した健康づくりの推進
 - ・地域団体（衛生連合会，食生活改善推進員協議会など）と連携した校区でのさまざまな活動※保健所中心
 - ・関係団体（医師会，歯科医師会，薬剤師協会，看護協会，栄養士会など），企業・NPO等と連携した各種イベントの開催（共催，後援）
 - ・教育委員会と連携した健康教育の推進（食育，小児生活習慣病予防など）

イ 特定健診・特定保健指導 二次予防

- 健診の結果に応じて，保健指導を実施（医療機関，保健所，健康づくりセンター等）
- 治療が必要な者への医療機関への受診勧奨

(3) 本市の取り組みにおける課題

ア 効果的な普及・啓発の実施

- 日々の健康づくり実践者をいかに増やしていくかという観点から，本市の大部分である「健康づくりへの意欲は高いが，実際の行動に結びついていない」市民に対する効果的な普及・啓発が必要である。

<参考>「福岡市ヘルシィ・シティ・アプローチに関するアンケート」※H21 実施
【調査・分析結果】（抜粋）
本市市民の大部分が「健康づくりへの意欲は高いが，実際の行動に結びついていない。」

イ 特定健診受診率の向上

	平成 20 年度	平成 21 年度
特定健診受診率（本市国保）	15.2%	16.7%

※H24 年度までに 65%を目標（全国，本市とも）

- 健診の重要性を多くの市民に理解してもらい，健診の受診につなげていくことが必要
- 市民が健診を受診しやすい環境づくりが必要（がん検診との同時実施など）

※がん検診の受診率向上も必要

ウ 特定健診受診後の対応

- 健診の結果，保健指導が必要な者への対応が十分とは言えない。（特定保健指導実施率の低迷）

	平成 20 年度	平成 21 年度
特定保健指導実施率（本市国保）	29.9%	27.2%

○要医療となった者については確実に医療機関につなぐ必要があるが、医療機関を受診せず放置している者も多く存在している。

エ 生活習慣病患者に対する重症化予防（三次予防）

○要医療者に対する行政からの受診勧奨や生活改善指導等は、特定健診直後の医療機関への受診指導以外、特に行われていない。

オ 戦略的な疾病対策

○市民の QOL の維持や医療費適正化の観点

・市民の QOL を著しく低下させるとともに、高額な医療費がかかる「人工透析患者」数は、全国的に増加の一途である。

・人工透析導入の原因疾患として、近年は糖尿病性腎症からのものが多い。

→ 「糖尿病対策」に力点を置いた事業展開が求められる

＜例＞糖尿病について

○糖尿病は、高血圧症、脂質異常症とともに、脳卒中、急性心筋梗塞等の重篤な疾病の重要な危険因子である。

○糖尿病の合併症である糖尿病網膜症、糖尿病腎症、糖尿病神経障害の発症は、患者の QOL（生活の質）を低下させるとともに、生命予後を大きく左右する。

このため、特に糖尿病は、今後の生活習慣病対策における重要な課題である。

★2007 年国民健康・栄養調査（厚生労働省）より

(1) 糖尿病が強く疑われる人・・・約 890 万人

（2002 年時点 約 740 万人，1997 年時点 約 690 万人） **急増**

(2) 糖尿病の可能性が否定できない人・・・約 1320 万人

合計 ((1)+(2))・・・約 2210 万人

うち、40 歳以上で現在治療中の人の割合は
男 56.9%，女 54.1%

「本市の取り組みにおける課題」から見えてきたもの・・・

◎これまでの市の施策は、ポピュレーションアプローチとしての健康づくりの普及・啓発等の一次予防が中心であったが、これからはハイリスクアプローチとしての二次予防（健診・検診）や三次予防（生活習慣病の重度・合併症等を防ぐ）にも力を入れていく必要がある。

※ ポピュレーションアプローチ・・・問題をもった人を限定せずに集団全体へ働きかけ、全体として疾病などのリスク（危険）を下げようとする方法やその施策のこと。

※ ハイリスクアプローチ・・・疾病などを発生しやすい、高い危険性をもった人を対象に対応していく方法やその施策のこと。